

[新]CSR 検定 2 級第 2 回試験正答

問題 1 「CSR 担当者に求められる思考と行動」に関する次の記述のうち、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（1 と 3 と 4 が適切）

問題 2 「中堅・中小企業の CSR 戦略」に関する次の記述のうち、間違っているのはどれか。

正答：ウ

問題 3 「CSR と CSV」に関する次の記述のうち適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（1 と 2 と 3 が適切）

問題 4 「東京財団 CSR 白書から見た日本企業の CSR」に関する記述のうち間違っているものはどれか。

※この問題は 2 級テキスト改訂 2 版に掲載されていない内容でしたので、すべての解答を正答といたします。

問題 5 「欧州 CSR 戦略」に関して、次の空欄に当てはまる正しい組み合わせはどれか。

正答：ア

問題 6 以下の CSR イニシアチブの中で、4 分野（人権、環境、労働、腐敗防止）10 原則を定めているものを一つ選べ。

正答：イ

問題 7 金融規制改革法（ドッド＝フランク・ウォール街改革・消費者保護法：通称ドッド・フランク法）について、正しいものを一つ選べ。

正答：ウ

問題 8 「国連ビジネスと人権に関する指導原則（以下、指導原則）」に関する記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

問題 9 英国の「現代奴隷法 2015」が定義する現代における奴隷に関する記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

問題 10 森林管理協議会による「FSC 認証」の特徴に関する記述のうち、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

問題 11 ステークホルダーとのダイアログについての次の記述のうち、不適切なものはいくつあるか。

正答：ア（2 が不適切）

問題 12 人権問題への取り組み体制構築についての次の記述のうち、正しいものはいくつあるか。

正答：イ（1 と 2 が正しい）

問題 13 経営トップや社内各部門の巻き込み方についての記述のうち、不適切なものはいくつあるか。

正答：イ（3 と 4 が不適切）

問題 14 社内での CSR 教育・浸透についての次の記述のうち、正しいものはいくつあるか。

正答：エ（すべて正しい）

問題 15 CSR のマテリアリティの特定についての次の記述のうち、不適切なものはいくつあるか。

正答：ア（4 が不適切）

問題 16 ISO26000 では、社会的責任を「組織の決定及び活動が社会及び環境に及ぼす影響に対して、次のような透明かつ倫理的な行動を通じて組織が担う責任」と定義している。次の項目のうち、定義の「次のような」以下に実際に記載されているものはいくつあるか。

正答：エ（4 だけが正しい）

問題 17 次のステークホルダーのうち、通常「脆弱な人々」とみなされるのは、いくつあるか。

正答：エ（3 だけが正しい）

問題 18 NGO の企業に対するアドボカシー活動によって起こり得る企業への影響には、以下のいくつが当てはまるか。

正答：イ（1 と 3 と 4 が正しい）

※影響には「売上げの低下」「評判の毀損」だけでなく「政府による取り締まり」も含まれるため「イ」を正答といたします。

問題 19 「責任ある機関投資家」（日本版スチュワードシップコード）の諸原則で定められる、機関投資家の責任のうち正しいものはいくつあるか。

正答：ウ（1 と 2 が正しい）

問題 20 一般消費者がサステナブル消費を行う際に参考になるものは以下のうちいくつあるか。

正答：イ（1 と 3 と 4 が正しい）

問題 21 コーポレート・ガバナンス・コードについて、下記の中で適切なものはいくつあるか。

正答：イ（1 と 2 と 3 が適切）

問題 22 2013 年 12 月、国際統合報告評議会(IIRC)が初の統合報告フレームワークを公表した。それらのフレームワークにおける狙いについて、下記の記述の中で不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

問題 23 日本において、その後環境報告書の進展に大きく貢献したのは 1996 年の ISO14001(EMS：環境マネジメントシステム)の発行とされる。その理由について最も適切なものを選べ。

正答：ア

問題 24 国連責任投資原則（PRI）における取組方針のうち、下記の中で最も不適切なものはどれか。

正答：エ

問題 25 日本におけるダイバーシティの現状について、下記の記述のうち最も適切なものを選べ。

※この問題は選択肢に表記ミスがあり、正しい選択肢がないため、すべての解答を正答といたします。

記述式問題

問題 1 企業はなぜ CSR に取り組むべきか、その理由を説明しなさい。

解答例

企業が CSR 活動や CSV 活動を通じて社会に貢献することによって、その企業やブランドに対する消費者や取引先などのステークホルダーや、社会全般からの信頼性や親近感が高まり、新たな「顧客創造」も期待できる。従業員が自社の CSR を正しく理解することで自社に対する信頼や忠誠心が高まり、モチベーションや生産性の向上につながる。さまざまなステークホルダーと長期的に良好な関係を築くことで、サプライチェーン上での人権問題など、通常では発見しにくい潜在リスクを見つけ、事前に対処できる。社会との対話の姿勢を強めることで、社会のニーズを知り、何らかの社会的課題を解決するために取り組むことが新しい事業領域の開拓につながる可能性がある。上場企業なら、ESG（環境、社会、ガバナンス）情報を発信することで、GPIF に代表されるサステナブル投資（ESG 投資）の対象になり、それが自社の株価の下支え要因となることが期待できる。（400 文字）

問題 2 CSR を経営に統合する際に重要なポイントを記述しなさい。

解答例

経営に CSR を統合するために必要な要素は 3 つある。それはビジョン、システム、教育だ。この 3 つのうちどれか一つでも欠けたら統合はうまくいかない。3 つの要素は足し算ではなく、いわば掛け算の関係にある。第一に「ビジョンの確立」である。社員全員が共有すべき企業理念や中核的価値に、社会的責任をきちんと組み込むことだ。経営への統合のために不可欠な第一歩である。しかし、第二に、その抽象的な理念は実際にさまざまなレベルで行われる経営の意思決定や日々の事業活動において具現化されなければ意味がない。そのために必要なのがシステム、つまり組織を動かしていく仕組みとしてのマネジメントシステムだ。第三に、理念やシステムという形だけ整えてよしとするのではなく、そこに魂を入れるための教育を十分に行わなければならない。社員が腹の底から理解して行動する、つまり自ら考え行動する社員を育むための教育が不可欠である。（393 文字）